

永保寺調査概要

建築物 研究室

昭和42年6月4日から6日にかけて永保寺の地形実測調査を行った。その結果の概略と、10月に建築班が調査した際、観音堂仏壇裏で発見した墨書もあわせて紹介したい。

1

永保寺は、鎌倉時代末に夢窓国師が庵を結んだところである。「夢窓国師年譜」によると、国師は正和2年(1333)甲斐の竜山庵を出て、美濃の長瀬山に至り、その地が山水景物天開図画の如き幽境で甚だ意に適い、庵を建て扁して古谿といい、のち虎谿に改めた。

翌3年観音閣を建てたが、堂前の園池も同時に築造されたものと思われる。「仏徳禪師語録」偈頌の部によると、「虎谿山居偶作」と題して

鏡面新ニ開^イ池水清^シ前峰倒^レ影^ツ入^ル波心^ニ

と見える。

2

寺域の現況は、第2図に示した。

観音堂の前には池(臥竜池)があり、無際橋が架けられている。その南東に小池がある。この小池と道をへだてた西側に窪地があり、池跡と考えられる。永保寺所蔵の古図が二鋪あり、一つは享和3年(1803)

永保寺調査概要

無際橋	了小橋共ニ	大橋番匠八	文明戊六	月廿四日	誌之	為後代也	住	中聚西堂	奉行別ニ在之	辛勞推察	可在者也
再興之事	同十八日供養	一六人小橋	二ヶ処卅六人	二ヶ処ニテ	森	森	出処	八幡森	□本	森	森
文政十一年	水陸会	二ヶ処卅六人	文明戊六	月廿四日	誌之	為後代也	住	中聚西堂	奉行別ニ在之	辛勞推察	可在者也
戊戌林鐘	十二日修造	了小橋共ニ	同十八日供養	大橋番匠八	文明戊六	月廿四日	誌之	為後代也	住	中聚西堂	奉行別ニ在之
再興之事	文政十一年	戊戌林鐘	十二日修造	了小橋共ニ	同十八日供養	大橋番匠八	文明戊六	月廿四日	誌之	為後代也	住
無際橋	再興之事	文政十一年	戊戌林鐘	十二日修造	了小橋共ニ	同十八日供養	大橋番匠八	文明戊六	月廿四日	誌之	為後代也

第1図 永保寺観音

第2図 永保寺庭園地形実測図

の銘があり、他は年代不明ではあるが、前者とほぼ同じ頃のものと思われる。享和3年銘には池が3ヶ所描かれている。後者には2ヶ所示されているが、一つの池は臥竜池と南東の小池がつつたような形に描かれている。

調査の際にまたま池底掃除を行っていた。池底は、岸近くはガラス敷きであるが、池の中心部は泥が深く底に達せずに終わったと聞く。いま開山堂の西側をまわつて土岐川に流れ入る川があり底は岩盤である。もとはこの川が直進し、梵音岩の下で淵をなしていたものであるうか。

門は現在東に一門のみであるが、前述の古図は、両者とも南と東に門を描いている。池の南、土岐川に近いところに表門跡と称するものが残っており、本来は南から入ったのであらう。

3

第1図に示した写真が観音堂仏壇框裏の墨書である。

これによると、文明10年に無際橋がかなり大規模に再興されたことがうかがえる。しかし無際橋が亭橋であるか否かは不明である。

前述古図にはともに橋が描かれており、享和3年銘のは擬宝珠勾欄付反橋であるが、他の一舗には勾欄がない。そしてどちらにも屋形は描かれていない。

「小橋二ヶ処」の場所は不明であるが、観音堂の東にある小島に現在コンクリートの橋が架かっており、あるいはこの前身かと思われる。

(牛川 喜幸)